

第7章 環境等影響分析

7.1 環境要素等の選定及び理由、分析手法

7.1.1 環境要素等の選定

第6章で抽出・設定された複数案について、事業の実施によって想定される環境影響要因と環境要素及び環境の保全の方向性との関係を整理し、分析の対象とする環境要素及び環境の保全の方向性を選定した。

環境影響要因と環境要素及び環境の保全・整備の方向性との関係は、表7-1に示すとおりである。

なお、影響分析は、現段階において工事に関する工程・施工方法が決定していないため、工事中の影響は分析対象とせず、土地又は工作物の存在及び供用に伴う影響について行うこととした。

表 7-1(1) 環境影響要因と環境要素との関係

環境要素の区分 影響要因の区分			整備内容				
			河道掘削	築堤	堰改築	遊水地設置	ダム設置
水環境	水質	土砂による水の濁り					○
		水温			○		
		富栄養化			○		
		塩素イオン濃度	○ ¹⁾				
	湧水	湧水	○				
	地下水の水質及び水位	地下水の水位	○				
土壌に係る環境	地形及び地質	重要な地形及び地質					
その他の環境	地盤	地下水の水位の低下による地盤沈下 ²⁾	○				
生態系		地域を特徴づける生態系	○	○	○	○	○
動物		重要な種及び注目すべき生息地	○	○	○	○	○
植物		重要な種及び群落	○	○	○	○	○
景観		主要な眺望点及び景観資源	○	○	○	○	○
人と自然との触れ合いの活動の場		主要な人と自然との触れ合いの活動の場	○	○	○	○	○

注：1) 河口部において河道掘削を行う案において対象とする。

2) 「地下水の水位の低下による地盤沈下」は、「地下水の水位」において地下水の水位の低下が発生すると予測された場合のみ影響が想定される。